

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

| | | | |
|------|-----------------|----|----|
| 所属 | 総合政策学部 | 身分 | 教授 |
| 氏名 | 佐々木 隆文 | | |
| NAME | Takafumi Sasaki | | |

1. 研究課題

（和文）地球温暖化対策と企業価値評価

（英文）Corporate carbon strategies and corporate value

2. 研究期間

2年間（2020～2021年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

この研究プロジェクトでは、両者の相互作用を考慮した上で温室効果ガス排出量と環境開示が資本コストに与える影響を調査した。ESG投資の拡がり背景に、企業の温室効果ガス排出量は株式のリスクプレミアムに影響する可能性がある。また、気候変動リスクのディスクロージャーが充実する中、そのような取り組みがどのようなベネフィットをもたらすかは必ずしも明らかではない。分析サンプルは、関連データが入手可能な上場日本企業で構成されている。2021年の福島原発事故以降、電力供給の化石燃料への依存度が高まる中、日本企業の株価に気候変動リスクがどの程度反映されているか、その影響がディスクロージャーによって変化するかを明らかにすることは重要な課題と思われる。Scope1排出量（直接排出量）、Scope2排出量（エネルギー消費に伴う排出量）については東洋経済のCSR企業総覧、Scope3排出量（サプライチェーンでの排出量）についてはCDP、財務データは日経メディアマーケティングのFinancial Questから入手した。資本コストについては先行研究で用いられている複数のモデルにより算出した。分析の結果、Scope1および2からの炭素排出量は、株式の資本コストを上昇させる効果が確認された。また、そのような関係はScope3排出量を開示している企業では緩和されることも明らかになった。本稿の分析結果は積極的な気候変動リスクの開示が株式市場からの評価を高める可能性を示唆している。

(英文)

We will investigate the impact of carbon emissions and environmental disclosure on the cost of equity with considering the interactive effect of emissions and environmental disclosure. We find the carbon emissions from scope 1 and 2 increase the cost of equity after controlling for the determinants of the cost of equity. Importantly, we also find that this relationship becomes weaken when firms disclose their carbon emissions stemming from their supply-chains (scope3).